

認定看護師教育基準カリキュラム
(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)
改正概要

分野	皮膚・排泄ケア		
分野特定年	1995年	認定開始年	1997年
カリキュラム検討期間	2021年6月～2021年11月		
【改正趣旨】			
<p>皮膚・排泄ケア分野の教育基準カリキュラムは、2016年度の改正から5年が経過するため見直しを行った。皮膚・排泄ケアを取り巻く最新の知見や時勢を反映し、学習内容の修正及び削除、学習の必要性が高い内容の追加を行った。また、単元と学習内容の表記について、B課程教育機関のカリキュラムと揃えた。教科目名及び教科目のねらいは、変更した単元と整合がとれるよう修正した。</p>			
【主な改正箇所】 ※改正理由は別紙「新旧対照表」参照			
<p>[専門科目]</p> <p>1)教科目「1. 皮膚・排泄ケア概論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科目のねらい4)に「及び社会保障」を追記した。 ・教科目のねらい7)の「医療チーム活動」を「チーム活動」に変更した。 ・単元1)に「(1)期待される能力」を追記した。 ・単元4)の(1)を「リスクの予測」に変更、「(2)リスクへの準備」「(3)組織的なリスク管理(災害に備えた対策含む)」を追記した。 ・単元5)の「診療報酬の現状と将来予測」を「診療報酬及び社会保障」に変更した。 ・単元8)の「組織ダイナミクス(1)チーム活動における認定看護師の役割(問題解決能力等を含む)」を「チーム活動における認定看護師の役割(問題解決能力等を含む)」に変更した。 <p>2)教科目「2. 皮膚のアセスメントとケア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科目のねらいに「(4)脆弱皮膚の特徴(病態を含む)とケアについて理解できる。」「(5)スキンケア用品について理解できる。」を追記した。 ・単元5)の(5)「化学療法」を「がん薬物療法」に変更した。 ・単元6)の(1)「被膜剤・剥離剤等」を「皮膚被膜剤・粘着剥離剤等」に変更した。 <p>3)教科目「3. 精神面のアセスメントとケア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元7)の「セクシャリティ」を「セクシュアリティ」に変更、「(1)セクシュアリティ・ジェンダー論の概念」「(2)性に関するアセスメントの視点と内容」「(3)性機能障害の原因と要因」「(4)排泄障害のある患者への性機能障害の対応」を追記した。 <p>4)教科目「5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科目のねらいに「(3)ストーマ造設に伴う合併症について理解する。」を追記した。 ・単元1)の「消化管の形態・機能(消化・排便のメカニズムを含む)」を「消化管の形態・機能」に変更し、「(1)上部・下部消化管の解剖と生理」「(2)排便のメカニズム」を追記した。 <p>5)教科目「6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科目のねらいに「(3)尿路変向術に伴う合併症について理解する。」を追記した。 ・単元1)の(1)に「と生理」を追記し、(2)の「排尿の生理(排尿のメカニズムを含む)」を「排尿のメカニズム」に変更した。 ・単元2)の「(1)悪性腫瘍(2)結石(3)先天性異常(二分脊椎を含む)等(4)脊髄損傷等」を「(1)悪性腫瘍(2)先天性異常(二分脊椎を含む)等(3)脊髄損傷等(4)結石等」に変更した。 			

- ・単元4(1)の「蓄尿機能障害」を「蓄尿障害」に変更し、(2)の「排出障害」を「尿排出障害」に変更した。
- 6) 教科目「7. ストーマの管理」
- ・教科目7の「ストーマケア」を「ストーマの管理」に変更した。
 - ・教科目のねらい4に「発達段階」を追記した。
 - ・単元3の「(2)排泄管理法 (3)患者会 (4)社会保障」を「(2)ピアサポート (3)社会保障 (4)災害対策」に変更した。
 - ・単元5の「独居」を「在宅療養者」に変更した。
- 7) 教科目「8. 排泄障害の管理」
- ・教科目8の「排泄障害のケア」を「排泄障害の管理」に変更した。
 - ・単元7の「バイオフィードバック療法」を削除した。
 - ・単元8の「排泄障害時のスキンケア」を「排泄障害に伴う皮膚障害のアセスメントとケア(IAD-setを含む)」に変更した。
 - ・単元9の「成長・発達」を「成長発達段階」に変更、(1)に「(二分脊椎等を含む)」を追記、(2)に「(認知症、在宅療養者等を含む)」を追記した。
 - ・単元に「10)排尿自立機能障害のケア (1)排尿自立支援 (2)カテーテル管理」を追記した。
- 8) 教科目「9. 創傷の病態と治療」
- ・単元7の(5)「DESIGN-R®」を「DESIGN-R®2020」に変更した。
 - ・単元9の「(4)血行再建」を削除した。
- 9) 教科目「10. 創傷のアセスメントと管理Ⅰ」
- ・単元2の(3)「創傷に合わせた薬剤の選択」を「薬剤の選択の実際」に変更した。
 - ・単元3の(5)「DESIGN-R®」を「DESIGN-R®2020」に変更した。
- 10) 教科目「11. 創傷のアセスメントと管理Ⅱ」
- ・単元5の「(1)発生機序」を削除した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

【目的・期待される能力】

旧(現行)	新	改正理由
<p>(目的)</p> <p>1. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。</p> <p>2. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。</p> <p>3. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。</p>	<p>(目的)</p> <p>1. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族に対し、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。</p> <p>2. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。</p> <p>3. 創傷管理及び排泄管理を要する患者とその家族の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。</p>	<p>・変更なし。</p>
<p>(期待される能力)</p> <p>1. 褥瘡や下肢創傷などの創傷を有する患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。</p> <p>2. ストーマ保有者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。</p> <p>3. 排泄障害を伴う患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。</p> <p>4. 脆弱皮膚をもつ患者に対しアセスメントを行い、皮膚障害を予防する専門的なスキンケアができる。</p> <p>5. 創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。</p> <p>6. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。</p> <p>7. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。</p> <p>8. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>9. 皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導、相談対応・支援を行うことができる。</p>	<p>(期待される能力)</p> <p>1. 褥瘡や下肢創傷などの創傷を有する患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。</p> <p>2. ストーマ保有者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。</p> <p>3. 排泄障害を伴う患者及びそのリスクがある患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。</p> <p>4. 脆弱皮膚をもつ患者に対しアセスメントを行い、皮膚障害を予防する専門的なスキンケアができる。</p> <p>5. 創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。</p> <p>6. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。</p> <p>7. 創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。</p> <p>8. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>9. 皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導、相談対応・支援を行うことができる。</p>	<p>・変更なし。</p>

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

【共通科目】

旧(現行)		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15(必修)	1. 医療安全学：医療倫理	15(必修)	・変更なし。
2. 医療安全学：医療安全管理	15(必修)	2. 医療安全学：医療安全管理	15(必修)	
3. 医療安全学：看護管理	15(必修)	3. 医療安全学：看護管理	15(必修)	
4. チーム医療論(特定行為実践)	15(必修)	4. チーム医療論(特定行為実践)	15(必修)	
5. 相談(特定行為実践)	15(必修)	5. 相談(特定行為実践)	15(必修)	
6. 臨床薬理学：薬理作用	15(必修)	6. 臨床薬理学：薬理作用	15(必修)	
7. 指導	15(必修) 小計	7. 指導	15(必修) 小計	
8. 対人関係	15(必修) 120	8. 対人関係	15(必修) 120	
9. 特定行為実践	15(選択)	9. 特定行為実践	15(選択)	
10. 臨床薬理学：薬物動態	15(選択)	10. 臨床薬理学：薬物動態	15(選択)	
11. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30(選択)	11. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30(選択)	
12. 臨床病態生理学	40(選択)	12. 臨床病態生理学	40(選択)	
13. 臨床推論	45(選択)	13. 臨床推論	45(選択)	
14. 臨床推論：医療面接	15(選択)	14. 臨床推論：医療面接	15(選択)	
15. フィジカルアセスメント：基礎	30(選択)	15. フィジカルアセスメント：基礎	30(選択)	
16. フィジカルアセスメント：応用	30(選択)	16. フィジカルアセスメント：応用	30(選択)	
17. 疾病：臨床病態概論	40(選択)	17. 疾病：臨床病態概論	40(選択)	
18. 疾病・臨床病態概論：状況別	15(選択) 小計	18. 疾病・臨床病態概論：状況別	15(選択) 小計	
19. 医療情報論	15(選択) 290	19. 医療情報論	15(選択) 290	
計	120(+290)	計	120(+290)	

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

【専門科目】

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 皮膚・排泄ケア概論	15	1)皮膚・排泄ケア領域の概念や歴史について理解する。 2)皮膚・排泄ケア領域において必要となる緩和ケアについて理解する。 3)皮膚・排泄ケア領域において必要となるリスクマネジメントについて理解する。 4)皮膚・排泄ケア領域における診療報酬について理解する。 5)皮膚・排泄ケア領域における地域連携について理解する。 6)褥瘡管理における医療の質評価について理解する。 7)医療チーム活動における認定看護師の役割について理解する。	1)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の概念 (1)対象理解 2)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の歴史 3)皮膚・排泄ケア領域における緩和ケア 4)皮膚・排泄ケア領域におけるリスクマネジメント (1)災害に備えた対策 5)皮膚・排泄ケア領域に関連する診療報酬の現状と将来予測 6)皮膚・排泄ケア領域における地域包括ケアシステムの概念 (1)在宅療養における地域連携 (2)在宅療養における支援体制 7)褥瘡管理における質の評価 (1)褥瘡発生率・褥瘡有病率 (2)褥瘡の治癒期間 (3)褥瘡予防用品の整備 8)組織ダイナミクス (1)チーム活動における認定看護師の役割(問題解決能力等を含む)	1. 皮膚・排泄ケア概論	15	1)皮膚・排泄ケア領域の概念や歴史について理解する。 2)皮膚・排泄ケア領域において必要となる緩和ケアについて理解する。 3)皮膚・排泄ケア領域において必要となるリスクマネジメントについて理解する。 4)皮膚・排泄ケア領域における診療報酬及び社会保障について理解する。 5)皮膚・排泄ケア領域における地域連携について理解する。 6)褥瘡管理における医療の質評価について理解する。 7)チーム活動における認定看護師の役割について理解する。	1)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の概念 <u>(1)期待される能力</u> <u>(2)対象理解</u> 2)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の歴史 3)皮膚・排泄ケア領域における緩和ケア 4)皮膚・排泄ケア領域におけるリスクマネジメント <u>(1)リスクの予測</u> <u>(2)リスクへの準備</u> <u>(3)組織的なリスク管理(災害に備えた対策含む)</u> 5)皮膚・排泄ケア領域に関連する診療報酬及び社会保障 6)皮膚・排泄ケア領域における地域包括ケアシステムの概念 (1)在宅療養における地域連携 (2)在宅療養における支援体制 7)褥瘡管理における質の評価 (1)褥瘡発生率・褥瘡有病率 (2)褥瘡の治癒期間 (3)褥瘡予防用品の整備 8) <u>チーム活動における認定看護師の役割(問題解決能力等を含む)</u>	・旧教科目 1)には、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、「期待される能力」を追記した。 ・リスクマネジメントは災害対策のみではないため、旧単元 4)は、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、変更した。 ・旧単元 5)は B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、変更した。また、単元にあわせ、旧教科目のねらい 4)に追記した。 ・旧教科目のねらい 7)は、単元の表記にあわせ変更した。 ・旧単元 8)は、「組織ダイナミクス」の表記では抽象的であるため、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. 皮膚のアセスメントとケア	30	1) 専門的なスキンケアを行うために必要な皮膚の形態・機能について理解する。 2) 皮膚に影響を与える因子について理解する。 3) 皮膚の状態に応じたアセスメント方法とケアについて理解する。	1) 皮膚と皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 2) ヒューマンインターフェイス概念 3) 皮膚に影響を与える内的・外的因子 (1) 内的因子: 年齢・疾患・免疫能等 (2) 外的因子: 物理的・化学的・刺激等 4) 皮膚のアセスメント (1) 皮膚の症候: ドライスキン・浸軟等 (2) 皮疹の種類と特徴 (3) 皮膚損傷: 表皮剥離・びらん・潰瘍等 (4) 皮膚感染症: 真菌・細菌 5) 脆弱皮膚の特徴(病態を含む)とケア (1) 高齢者 (2) 低出生体重児 (3) 浮腫(リンパ浮腫含む) (4) 黄疸 (5) 治療: 化学療法・放射線療法・ステロイド・移植(GVHD)等 6) スキンケア用品 (1) 予防的スキンケア用品: 洗浄剤・保湿剤・皮膚保護剤・被膜剤・剥離剤等 (2) 治療的スキンケア用品: 皮膚保護剤等 (3) その他: 医療用粘着テープ	2. 皮膚のアセスメントとケア	30	1) 専門的なスキンケアを行うために必要な皮膚の形態・機能について理解する。 2) 皮膚に影響を与える因子について理解する。 3) 皮膚の状態に応じたアセスメント方法とケアについて理解する。 <u>4) 脆弱皮膚の特徴(病態を含む)とケアについて理解できる。</u> <u>5) スキンケア用品について理解できる。</u>	1) 皮膚と皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖 2) ヒューマンインターフェイス概念 3) 皮膚に影響を与える内的・外的因子 (1) 内的因子: 年齢・疾患・免疫能等 (2) 外的因子: 物理的・化学的・刺激等 4) 皮膚のアセスメント (1) 皮膚の症候: ドライスキン・浸軟等 (2) 皮疹の種類と特徴 (3) 皮膚損傷: 表皮剥離・びらん・潰瘍等 (4) 皮膚感染症: 真菌・細菌 5) 脆弱皮膚の特徴(病態を含む)とケア (1) 高齢者 (2) 低出生体重児 (3) 浮腫(リンパ浮腫含む) (4) 黄疸 (5) 治療: <u>がん薬物療法</u> ・放射線療法・ステロイド・移植(GVHD)等 6) スキンケア用品 (1) 予防的スキンケア用品: 洗浄剤・保湿剤・皮膚保護剤・ <u>皮膚被膜剤</u> ・ <u>粘着剥離剤</u> 等 (2) 治療的スキンケア用品: 皮膚保護剤等 (3) その他: 医療用粘着テープ	<p>・教科目のねらい 4)、5) は、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、追記した。</p> <p>・旧単元 5) (5) は、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、変更した。</p> <p>・旧単元 1) (1) は、B 課程の教育基準カリキュラムの表記に揃え、変更した。</p>

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
3. 精神面のアセスメントとケア	15	1)患者・家族の心理をアセスメントするために必要となる理論について理解する。 2)患者・家族の心理状態に応じたケアについて理解する。	1)ストレスコーピング (1)ストレス理論 (2)ストレスを引き起こす要因 (3)治療とストレスマネジメント (4)援助方法 2)ボディイメージ (1)ボディイメージの定義 (2)ボディイメージの変化に対する適応 3)悲嘆 (1)悲嘆の定義 (2)悲嘆反応 (3)援助方法 4)危機理論 (1)危機の定義 (2)危機モデル (3)危機介入 5)家族理論 6)スピリチュアルケア 7)セクシャリティ	3. 精神面のアセスメントとケア	15	1)患者・家族の心理をアセスメントするために必要となる理論について理解する。 2)患者・家族の心理状態に応じたケアについて理解する。	1)ストレスコーピング (1)ストレス理論 (2)ストレスを引き起こす要因 (3)治療とストレスマネジメント (4)援助方法 2)ボディイメージ (1)ボディイメージの定義 (2)ボディイメージの変化に対する適応 3)悲嘆 (1)悲嘆の定義 (2)悲嘆反応 (3)援助方法 4)危機理論 (1)危機の定義 (2)危機モデル (3)危機介入 5)家族理論 6)スピリチュアルケア 7)セクシュアリティ <u>(1)セクシュアリティ・ジェンダー論の概念</u> <u>(2)性に関するアセスメントの視点と内容</u> <u>(3)性機能障害の原因と要因</u> <u>(4)排泄障害のある患者への性機能障害の対応</u>	・旧教科目7)は、「セクシャリティ」を正しい用語表記である「セクシュアリティ」に変更した。また、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、追記した。
4. 栄養のアセスメントと管理	15	1)栄養状態をアセスメントするために必要となる評価方法について理解する。 2)皮膚・排泄ケア領域に関連する栄養管理を行うために必要となる管理方法及び栄養剤の種類と特徴について理解する。	1)栄養状態のアセスメント (1)主観的包括的評価 (SGA: subjective global assessment) (2)客観的栄養評価 (ODA: objective data assessment) (3)栄養経路 2)栄養管理 (1)周術期の栄養管理 (2)栄養必要量の算定 (3)経口摂取による栄養管理: 栄養補助食品の種類と特徴 (4)経腸栄養管理: 経腸栄養剤の種類と特徴	4. 栄養のアセスメントと管理	15	1)栄養状態をアセスメントするために必要となる評価方法について理解する。 2)皮膚・排泄ケア領域に関連する栄養管理を行うために必要となる管理方法及び栄養剤の種類と特徴について理解する。	1)栄養状態のアセスメント (1)主観的包括的評価 (SGA: subjective global assessment) (2)客観的栄養評価 (ODA: objective data assessment) (3)栄養経路 2)栄養管理 (1)周術期の栄養管理 (2)栄養必要量の算定 (3)経口摂取による栄養管理: 栄養補助食品の種類と特徴 (4)経腸栄養管理: 経腸栄養剤の種類と特徴	・変更なし

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)

新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
[排泄管理] 5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	30	1)消化管の形態・機能について理解する。 2)ストーマを造設する疾患とその治療について理解する。 3)排便障害の病態と治療について理解する。	1)消化管の形態・機能(消化・排便のメカニズムを含む) 2)ストーマを造設する疾患と治療 (1)悪性腫瘍 (2)炎症性腸疾患 (3)先天性異常(二分脊椎を含む)等 (4)脊髄損傷等 3)ストーマ造設に伴う合併症(性機能障害を含む) 4)排便障害の病態と治療(検査を含む) (1)貯留能障害:薬物・手術療法 (2)結腸性(非直腸性)障害:薬物・手術療法	[排泄管理] 5. 排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	30	1)消化管の形態・機能について理解する。 2)ストーマを造設する疾患とその治療について理解する。 <u>3)ストーマ造設に伴う合併症について理解する。</u> 4)排便障害の病態と治療について理解する。	1)消化管の形態・機能 <u>(1)上部・下部消化管の解剖と生理</u> <u>(2)排便のメカニズム</u> 2)ストーマを造設する疾患と治療 (1)悪性腫瘍 (2)炎症性腸疾患 (3)先天性異常(二分脊椎を含む)等 (4)脊髄損傷等 3)ストーマ造設に伴う合併症(性機能障害を含む) 4)排便障害の病態と治療(検査を含む) (1)貯留能障害:薬物・手術療法 (2)結腸性(非直腸性)障害:薬物・手術療法	・B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、教科目のねらい3)を追記した。 ・旧単元1)はB 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。
6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	30	1)泌尿器の形態・機能について理解する。 2)尿路変向術を必要とする疾患とその治療について理解する。 3)排尿障害の病態と治療について理解する。	1)泌尿器の形態・機能 (1)上部・下部尿路の解剖 (2)排尿の生理(排尿のメカニズムを含む) 2)尿路変向術(膀胱ろう・腎ろうを含む)を必要とする疾患と治療 (1)悪性腫瘍 (2)結石 (3)先天性異常(二分脊椎を含む)等 (4)脊髄損傷等 3)尿路変向術に伴う合併症(性機能障害を含む) 4)排尿障害の病態と治療(検査を含む) (1)蓄尿機能障害:薬物・手術療法・保存療法 (2)排出障害:薬物・手術療法・保存療法	6. 排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	30	1)泌尿器の形態・機能について理解する。 2)尿路変向術を必要とする疾患とその治療について理解する。 <u>3)尿路変向術に伴う合併症について理解する。</u> 4)排尿障害の病態と治療について理解する。	1)泌尿器の形態・機能 (1)上部・下部尿路の解剖と <u>生理</u> (2) <u>排尿のメカニズム</u> 2)尿路変向術(膀胱ろう・腎ろうを含む)を必要とする疾患と治療 (1)悪性腫瘍 (2) <u>先天性異常(二分脊椎を含む)等</u> (3) <u>脊髄損傷等</u> (4) <u>結石等</u> 3)尿路変向術に伴う合併症(性機能障害を含む) 4)排尿障害の病態と治療(検査を含む) (1) <u>蓄尿障害</u> :薬物・手術療法・保存療法 (2) <u>尿排出障害</u> :薬物・手術療法・保存療法	・B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、教科目のねらい3)を追記した。 ・旧単元1)は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・結石での尿路変更術は臨床現場でほとんどないため旧単元2)(2)は順番を変更し、「結石等」とした。 ・旧単元4)(1)(2)は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
7. ストーマケア	30	1) ストーマ用品について理解する。 2) 周手術期のストーマ管理について理解する。 3) ストーマの長期管理について理解する。 4) 成長に応じたストーマ管理について理解する。 5) ストーマ周囲のスキントラブルを理解し、対処について理解する。 6) ストーマの晩期合併症を理解し、アセスメントできる。 7) ストーマ保有者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) ストーマ用品の種類と特徴 2) 周手術期のストーマ管理 3) ストーマの長期管理 (1) ストーマ外来 (2) 排泄管理法 (3) 患者会 (4) 社会保障 4) 小児期から青年期におけるストーマ管理 (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 5) 成人期から老年期におけるストーマ管理(認知症・独居等を含む) (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 管理困難なストーマケア (1) ストーマ周囲の皮膚障害のアセスメントとケア(ABCD-stoma®を含む) (2) その他のストーマ合併症	7. <u>ストーマの管理</u>	30	1) ストーマ用品について理解する。 2) 周手術期のストーマ管理について理解する。 3) ストーマの長期管理について理解する。 4) <u>成長発達段階</u> に応じたストーマ管理について理解する。 5) ストーマ周囲のスキントラブルを理解し、対処について理解する。 6) ストーマの晩期合併症を理解し、アセスメントできる。 7) ストーマ保有者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) ストーマ用品の種類と特徴 2) 周手術期のストーマ管理 3) ストーマの長期管理 (1) ストーマ外来 <u>(2) ピアサポート</u> <u>(3) 社会保障</u> <u>(4) 災害対策</u> 4) 小児期から青年期におけるストーマ管理 (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 5) 成人期から老年期におけるストーマ管理(認知症・ <u>在宅療養者</u> 等を含む) (1) ストーマに関する身体的問題のアセスメント (2) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 管理困難なストーマケア (1) ストーマ周囲の皮膚障害のアセスメントとケア(ABCD-stoma®を含む) (2) その他のストーマ合併症	・旧教科目名はB 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・旧単元 3) (2) (3) (4) はB 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・旧教科目のねらい 4) はB 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・旧単元 5) は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
8. 排泄障害のケア	30	1) 排便障害・排尿障害のアセスメントができる。 2) 排泄ケア用品の種類や特徴について理解する。 3) 排泄障害の要因や程度にあったケアについて理解する。 4) 排泄障害時のスキンケアについて理解する。 5) 排泄障害がある患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) 排便障害のアセスメント (1) 排便状態のアセスメント (2) 排便障害に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 2) 排泄ケア用品(排便)の種類と特徴 3) 排便障害のケア: 行動療法・強制排便法 4) 排便コントロール: 食事療法・薬物療法 5) 下部尿路機能障害のアセスメント (1) 下部尿路症状のアセスメント (2) 下部尿路症状に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 排泄ケア用品(排尿)の種類と特徴 7) 下部尿路機能障害のケア: 行動療法・自己導尿・骨盤底筋訓練・バイオフィードバック療法等 8) 排泄障害時のスキンケア 9) 成長・発達に応じた排泄障害の管理 (1) 小児期から青年期 (2) 成人期から老年期	8. <u>排泄障害の管理</u>	30	1) 排便障害・排尿障害のアセスメントができる。 2) 排泄ケア用品の種類や特徴について理解する。 3) 排泄障害の要因や程度にあったケアについて理解する。 4) 排泄障害時のスキンケアについて理解する。 5) 排泄障害がある患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。	1) 排便障害のアセスメント (1) 排便状態のアセスメント (2) 排便障害に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 2) 排泄ケア用品(排便)の種類と特徴 3) 排便障害のケア: 行動療法・強制排便法 4) 排便コントロール: 食事療法・薬物療法 5) 下部尿路機能障害のアセスメント (1) 下部尿路症状のアセスメント (2) 下部尿路症状に関する身体的問題のアセスメント (3) 心理・社会的状態のアセスメント 6) 排泄ケア用品(排尿)の種類と特徴 7) <u>下部尿路機能障害のケア: 行動療法・自己導尿・骨盤底筋訓練等</u> 8) <u>排泄障害に伴う皮膚障害のアセスメントとケア(IAD-setを含む)</u> 9) <u>成長発達段階に応じた排泄障害の管理</u> (1) <u>小児期から青年期(二分脊椎等を含む)</u> (2) <u>成人期から老年期(認知症、在宅療養者等を含む)</u> 10) <u>排尿自立機能障害のケア</u> (1) <u>排尿自立支援</u> (2) <u>カテーテル管理</u>	・旧教科目名は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・旧単元 7) は、「バイオフィードバック療法」は「行動療法」に含まれるため削除した。 ・旧単元 8) は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、変更した。 ・旧単元 9) (1) (2) は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、追記した。 ・旧単元 10) は、B 課程の教育基準カリキュラムに揃え、追記した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
[創傷管理] 9. 創傷の病態と治療	30	1)創傷の種類と病態について理解する。 2)創傷治癒過程とメカニズムについて理解する。 3)創傷治癒を遅延させる局所的要因・全身的要因について理解する。 4)創床環境調整(Wound bed preparation)理論について理解する。 5)創傷管理における疼痛緩和について理解する。 6)慢性創傷の治療について理解する。 7)褥瘡の病態と治療について理解する。 8)医療関連機器圧迫創傷の病態と治療について理解する。 9)下肢創傷の病態と治療について理解する。 10)ろう孔の病態と治療について理解する。 11)創部哆開創(SSIを含む)の病態と治療について理解する。 12)スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療について理解する。	1)創傷の種類と病態 (1)急性創傷 (2)慢性創傷 2)創傷の治癒過程とメカニズム 3)創傷治癒を遅延させる因子 4)創床環境調整(Wound bed preparation) (1)デブリードマン (2)滲出液管理 (3)感染管理(バイオフィーム及びクリティカルコロナイゼーションを含む) 5)創傷管理における疼痛緩和 6)慢性創傷の治療 (1)陰圧閉鎖療法 (2)薬物療法 (3)手術療法 7)褥瘡の病態と治療 (1)褥瘡の発生機序 (2)褥瘡の分類、アセスメント・評価 (3)治癒のアセスメントとモニタリング(創傷治癒過程、TIME理論等) (4)褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 (5)DESIGN-R®に基づいた治療指針 (6)褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム (7)感染のアセスメント (8)褥瘡の治癒のステージ別局所療法 8)医療関連機器圧迫創傷の病態と治療 9)下肢創傷の病態別治療 (1)糖尿病性足病変 (2)末梢動脈疾患(PAD) (3)静脈性潰瘍 <u>(4)血行再建</u> 10)ろう孔の病態と治療 (1)胃ろう・腸ろう (2)消化管外ろう 11)創部哆開創(SSIを含む)の病態と治療 12)スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療	[創傷管理] 9. 創傷の病態と治療	30	1)創傷の種類と病態について理解する。 2)創傷治癒過程とメカニズムについて理解する。 3)創傷治癒を遅延させる局所的要因・全身的要因について理解する。 4)創床環境調整(Wound bed preparation)理論について理解する。 5)創傷管理における疼痛緩和について理解する。 6)慢性創傷の治療について理解する。 7)褥瘡の病態と治療について理解する。 8)医療関連機器圧迫創傷の病態と治療について理解する。 9)下肢創傷の病態と治療について理解する。 10)ろう孔の病態と治療について理解する。 11)創部哆開創(SSIを含む)の病態と治療について理解する。 12)スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療について理解する。	1)創傷の種類と病態 (1)急性創傷 (2)慢性創傷 2)創傷の治癒過程とメカニズム 3)創傷治癒を遅延させる因子 4)創床環境調整(Wound bed preparation) (1)デブリードマン (2)滲出液管理 (3)感染管理(バイオフィーム及びクリティカルコロナイゼーションを含む) 5)創傷管理における疼痛緩和 6)慢性創傷の治療 (1)陰圧閉鎖療法 (2)薬物療法 (3)手術療法 7)褥瘡の病態と治療 (1)褥瘡の発生機序 (2)褥瘡の分類、アセスメント・評価 (3)治癒のアセスメントとモニタリング(創傷治癒過程、TIME理論等) (4)褥瘡及び創傷治癒と栄養管理 (5)DESIGN-R®2020に基づいた治療指針 (6)褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム (7)感染のアセスメント (8)褥瘡の治癒のステージ別局所療法 8)医療関連機器圧迫創傷の病態と治療 9)下肢創傷の病態別治療 (1)糖尿病性足病変 (2)末梢動脈疾患(PAD) (3)静脈性潰瘍 10)ろう孔の病態と治療 (1)胃ろう・腸ろう (2)消化管外ろう 11)創部哆開創(SSIを含む)の病態と治療 12)スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療	・旧単元 7) (5)は、DESIGN-R®の改訂に伴い変更した。 ・旧単元 9) (4)は、血行再建は治療法であり、「(1)糖尿病性足病変」「(2)末梢動脈疾患(PAD)」に含まれるため、削除した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
10. 創傷のアセスメントと管理 I	30	1)創傷を有する患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。 2)創傷被覆材の種類と特徴について理解する。 3)創傷の状態に合わせた、創傷被覆材や薬剤の選択方法について理解する。 4)褥瘡の発生機序と予防方法について理解する。 5)褥瘡のアセスメントができる。 6)褥瘡の治癒環境を整えるケアについて理解する。	1)創傷を有する患者のアセスメント (1)創傷を有する患者の身体的問題のアセスメント (2)心理・社会的状態のアセスメント 2)創傷のケア(急性・慢性) (1)創傷被覆材の種類と特徴 (2)創傷被覆材の選択の実際 (3)創傷に合わせた薬剤の選択 3)褥瘡管理 (1)発生機序 (2)リスクアセスメント (3)スキンケア (4)体圧の調整とポジショニング(車いすを含む) (5)褥瘡の局所アセスメント(DSIGN-R®を含む)・超音波検査・皮膚温 (6)褥瘡の局所ケア	10. 創傷のアセスメントと管理 I	30	1)創傷を有する患者の身体的・心理的・社会的問題について理解する。 2)創傷被覆材の種類と特徴について理解する。 3)創傷の状態に合わせた、創傷被覆材や薬剤の選択方法について理解する。 4)褥瘡の発生機序と予防方法について理解する。 5)褥瘡のアセスメントができる。 6)褥瘡の治癒環境を整えるケアについて理解する。	1)創傷を有する患者のアセスメント (1)創傷を有する患者の身体的問題のアセスメント (2)心理・社会的状態のアセスメント 2)創傷のケア(急性・慢性) (1)創傷被覆材の種類と特徴 (2)創傷被覆材の選択の実際 (3)薬剤の選択の実際 3)褥瘡管理 (1)発生機序 (2)リスクアセスメント (3)スキンケア (4)体圧の調整とポジショニング(車いすを含む) (5)褥瘡の局所アセスメント(DSIGN-R®2020を含む)・超音波検査・皮膚温 (6)褥瘡の局所ケア	・旧単元 2) (3)は同単元(2)の表記方法にあわせて変更した。 ・旧単元 3) (5)は、DESIGN-R®の改訂に伴い変更した。

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
11. 創傷のアセスメントと管理 II	30	1)医療関連機器圧迫創傷のケアについて理解する。 2)下肢創傷のアセスメントができる。 3)下肢創傷のケアについて理解する。 4)ろう孔ケアの目的と方法について理解する。 5)創部哆開創(SSIを含む)のケアについて理解する。 6)スキン-テア(皮膚裂傷)のケアについて理解する。	1)医療関連機器圧迫創傷管理 (1)発生機序 (2)アセスメントとケア 2)下肢創傷管理 (1)下肢創傷のアセスメント(血流障害・神経障害の評価)、予防ケア (2)下肢創傷のケア (フットケア、日常生活指導、フットウェア、局所ケア等) 3)ろう孔管理(ドレーンを含む) (1)ろう孔の局所アセスメント (2)ろう孔のケア (パウチング法、吸引法等) (3)特殊なろう孔ケア (胃ろう、気管切開孔等) 4)創部哆開創(SSIを含む)の管理 (1)創部哆開創(SSIを含む)のアセスメントとケア 5)スキン-テア(皮膚裂傷)の管理 <u>(1)発生機序</u> (2)アセスメント(STAR スキン-テア分類を含む)とケア	11. 創傷のアセスメントと管理 II	30	1)医療関連機器圧迫創傷のケアについて理解する。 2)下肢創傷のアセスメントができる。 3)下肢創傷のケアについて理解する。 4)ろう孔ケアの目的と方法について理解する。 5)創部哆開創(SSIを含む)のケアについて理解する。 6)スキン-テア(皮膚裂傷)のケアについて理解する。	1)医療関連機器圧迫創傷管理 (1)発生機序 (2)アセスメントとケア 2)下肢創傷管理 (1)下肢創傷のアセスメント(血流障害・神経障害の評価)、予防ケア (2)下肢創傷のケア (フットケア、日常生活指導、フットウェア、局所ケア等) 3)ろう孔管理(ドレーンを含む) (1)ろう孔の局所アセスメント (2)ろう孔のケア (パウチング法、吸引法等) (3)特殊なろう孔ケア (胃ろう、気管切開孔等) 4)創部哆開創(SSIを含む)の管理 (1)創部哆開創(SSIを含む)のアセスメントとケア 5)スキン-テア(皮膚裂傷)の管理 <u>(1)アセスメント(STAR スキン-テア分類を含む)とケア</u>	・旧単元 5) (1)発生機序は、教科目 9. 創傷の病態と治療の単元 12) スキン-テア(皮膚裂傷)の病態と治療と重複するため削除した。
計	285			計	285			

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

【学内演習】

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
1. 学内演習	60 (必修)	1)排泄管理技術を身につける(ストーマケア・失禁ケア)。 2)創傷管理技術を身につける(褥瘡ケア・下肢創傷ケア)。 3)患者のQOLの向上を目指した看護サービスが提供できるための集団教育の方法を理解し、効果的なプレゼンテーションができる。 4)実習で関わった事例を皮膚・排泄ケアの視点をもって報告することができる。 5)皮膚・排泄ケア領域で最近の論点となるような問題点や最近のケアについて専門的な立場で将来を見通した考察ができる。	1)排泄管理技術演習 排泄管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 2)創傷管理技術演習 創傷管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 3)プレゼンテーション 講義形式の教育活動の準備・実施・評価を通じて、患者のQOLの向上をめざした質の高い皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)サービスが提供できるための集団教育方法を修得する。 4)ケースレポート (1)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の対象となる患者に全人的なケアを行うための的確なアセスメントを実施する。 (2)皮膚・排泄ケア認定看護師としての役割と機能を十分に発揮できるケア計画を立て実践する。 (3)科学的論文等を活用し、看護実践を論理的に評価・フィードバックし、看護ケアの専門性について考察を深め、報告する。	1. 学内演習	60 (必修)	1)排泄管理技術を身につける(ストーマケア・失禁ケア)。 2)創傷管理技術を身につける(褥瘡ケア・下肢創傷ケア)。 3)患者のQOLの向上を目指した看護サービスが提供できるための集団教育の方法を理解し、効果的なプレゼンテーションができる。 4)実習で関わった事例を皮膚・排泄ケアの視点をもって報告することができる。 5)皮膚・排泄ケア領域で最近の論点となるような問題点や最近のケアについて専門的な立場で将来を見通した考察ができる。	1)排泄管理技術演習 排泄管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 2)創傷管理技術演習 創傷管理のスキルを身につけ、個々のケースに応じた実践能力を養う。 3)プレゼンテーション 講義形式の教育活動の準備・実施・評価を通じて、患者のQOLの向上をめざした質の高い皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)サービスが提供できるための集団教育方法を修得する。 4)ケースレポート (1)皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の対象となる患者に全人的なケアを行うための的確なアセスメントを実施する。 (2)皮膚・排泄ケア認定看護師としての役割と機能を十分に発揮できるケア計画を立て実践する。 (3)科学的論文等を活用し、看護実践を論理的に評価・フィードバックし、看護ケアの専門性について考察を深め、報告する。	・変更なし。
計	60			計	60			

認定看護師教育基準カリキュラム(特定行為研修を組み込んでいない教育課程:A 課程教育機関)
新旧対照表 (皮膚・排泄ケア)

改正箇所:下線

【臨地実習】

旧(現行)				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
2. 臨地実習	180 (必修)	1)褥瘡や下肢創傷などを有している患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。 2)ストーマ保有者や失禁を伴う患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。 3)創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。 4)創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。 5)創傷管理や排泄管理を要する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 6)より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 7)皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。	皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の対象を的確に判断し、QOLの向上をめざした質の高い看護サービスを提供するため、「ケアの実践能力」・「患者及びスタッフへの指導能力」・「スタッフからの相談に応じる能力」を養う。 1)創傷ケア (1)創傷を有する患者のケア見学を含めて20例以上 (2)創傷を有する患者のケアの展開1例以上 2)ストーマケア (1)ストーマを有する患者のケア見学を含めて15例以上 (2)ストーマを有する患者のケアの展開1例以上 3)失禁ケア (1)排泄障害を有する患者のケア見学を含めて5例以上 (2)排泄障害を有する患者のケアの展開1例以上	2. 臨地実習	180 (必修)	1)褥瘡や下肢創傷などを有している患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。 2)ストーマ保有者や失禁を伴う患者に対しアセスメントを行い、専門的なスキンケアと排泄管理ができる。 3)創傷管理や排泄管理を要する患者にフィジカルアセスメントを行い、かつ心理的、社会的及びスピリチュアルな問題を理解し、問題解決のための援助ができる。 4)創傷管理や排泄管理を要する患者とその家族が病状に応じた自己管理ができるよう、生活に則した効果的な指導ができる。 5)創傷管理や排泄管理を要する患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。 6)より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。 7)皮膚・排泄ケアの実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行うことができる。	皮膚・排泄ケア(創傷・オストミー・失禁)の対象を的確に判断し、QOLの向上をめざした質の高い看護サービスを提供するため、「ケアの実践能力」・「患者及びスタッフへの指導能力」・「スタッフからの相談に応じる能力」を養う。 1)創傷ケア (1)創傷を有する患者のケア見学を含めて20例以上 (2)創傷を有する患者のケアの展開1例以上 2)ストーマケア (1)ストーマを有する患者のケア見学を含めて15例以上 (2)ストーマを有する患者のケアの展開1例以上 3)失禁ケア (1)排泄障害を有する患者のケア見学を含めて5例以上 (2)排泄障害を有する患者のケアの展開1例以上	・変更なし。
計	180			計	180			

共通科目 120(+290)時間
 専門科目 285 時間
 学内演習 60 時間
 臨地実習 180 時間
 総時間 645(+290)時間

共通科目 120(+290)時間
 専門科目 285 時間
 学内演習 60 時間
 臨地実習 180 時間
 総時間 645(+290)時間